

商品価値 アニメでPR 仙台の社団法人制作



機構が制作したアニメ動画

仙台市の社団法人「ジョイントベンチャー実践支援機構」は、企業の商品やサービスを紹介するアニメーション動画制作事業に力を入れている。ウェブや営業活動に使うことで商品価値を分かりやすく訴求でき、新型コロナウイルス下の新たな営業ツールとしても好評を博している。

ICT（情報通信技術）機器の販売やコンサルティングを手掛ける東通インテグレート（仙台市）は、今年に入って同機構制作のアニメ動画5本程度を導入した。主に営業担当がパソコンやタブレットを使ったプレゼンで、ネットワーク、セキュリティ、リモート会議といったサービスに応じた説明に使う。

同社の宮本弘専務は「これまでの口頭での説明に比べ、ビジネスのの中身を2、3分でシンプルに分かりやすく伝えられるようになった。営業担当の評判もいい」と評価する。

健康年齢少額短期保険（東京）は2月から、保険商品の紹介動画2本（1〜2分）をホームページやテレビCMで使用。大橋宏次社長は「ウェブ経由の申し込みはじわじわと増えている。サービスの分かりやすい『入り口』として、一定程度の効果があるのではないかと話す。

同機構が制作に使うのは、米国発のビジネスアニメ制作のクラウドツール「Vyond（ビヨンド）」だ。数多くのテンプレートからキャラクターなどの素材、背景を自由に組み合わせることができ、コストは一般的なアニメ動画が1分当たり50万円程度かかるのに比べ4分の1ほどに抑えられるという。

「分かりやすく商品価値を訴求できるのがアニメの良さ。実写に比べて安価で済み、修正や調整にも対応しやすい」と同機構の高橋弘代表理事は話す。

昨年からコロナ禍で、企業の展示会などは相次いで中止された。対面型の営業活動が難しい局面も増えたことで、宮城県内外から引き合いがあるという。

高橋氏は「ウェブなど商圏を越えたアピールに威力を発揮する。地元と県外、商品と販路を結び、助っ人セールスマン」として活用してほしい」とPRする。

に聞いた。◇（7回続き）
 「新型コロナウイルスの影響を受け、中、東北の製造業の現状は、「全体としては自動車産業を中心に比較的安定してい

みやぎ工業

「富県戦略」の下、東北にトヨタ自動車東日本など自動車産業などが集積した。国と県の政策が相まって、最大のピンチから成長軌道に乗ることができた。

「政府は6月、国内の半導体産業再興に向けた新戦略を策定した。

「大手企業と中小企業の収益力の差を感じる。中小企業への分配をしっかりとしてほしい。『生かさず殺さず』という昔ながらの大手と中小の関係



コロナ対策強化

みやぎ生協（仙台市）は、安心して買物できる環境を整えようと、新型コロナウイルス感染症防止対策の強化を進めている。使用済みの買い物かごの除菌や、客が触れる場所への抗菌コーティングを



精算済みかごを除菌ブースに運び入れる 仙台市青葉区のみやぎ生協

東北電など出資 太陽光発電稼働

宮城・大郷

東北電力は19日、出資参画する太陽光発電事業会社「宮城大郷ソーラーパーク合同会社」（東京）が宮城県大郷町で建設を進めていた太陽光発電所が同日、運転を開始したと発表した。

山林約69万平方メートルにパネル約11万6000枚を設置し、出力は3万7500kw。約1万5600世帯分

の消費電力量間5640万kwhに達する。東北電によると、年間0.1の二酸化炭素削減に貢献する。

2018年社には東北ナジーズ・リズ（フランス）グループ（東京）が